

# KSKP えのき NEWSLETTER

地域で当たり前前に暮らすために

編集人：社会福祉法人えのき会  
理事長：古川 末子  
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8  
075-605-0303 (TEL)  
075-605-0310 (FAX)  
e-mail: info@enokikai.or.jp  
http://enokikai.or.jp

社会福祉事業における人材確保が厳しくなっています。特に、ここ数年は新卒者の確保が困難で、学生の多くは複数の内定をもらい、より自分の希望に添う事業所を丁寧に選考し、先輩等からの情報も得てじっくり選んでいくと聞かれます。

現に、福祉就職フェアなどの来訪者数も減少し、五月以降のフェアになると事業所のブースを訪れてくれる学生はまばらな状況で、出合いの少なさに愕然とさせられることがしばしばあります。

こうした状況のなか、えのき会では、多くの法人が取り組まれているホームページに就活サイトの開設や就活ナビへの掲載等、学生が情報確認するのに必要なツールを整備した。小さな法人には負担が伴うが、人材確保には一定の投資が必要な時代になっている。

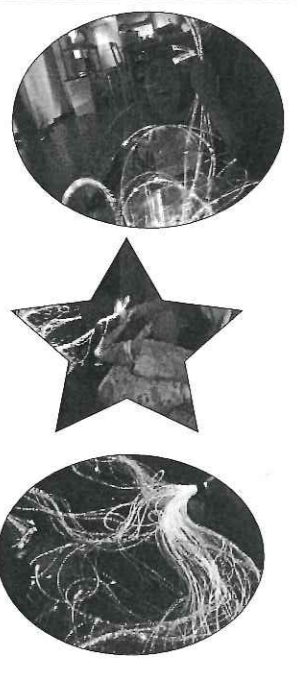
さらに、インターンシップの受入事業所説明会の随時開催などきめ細かな取組は、どの法人でも取り組まれていることであろう。いかに、事業所に関心をもってもらい、見学会に来訪し法人の魅力を感じてもらえるのか、この数年重視しているところである。結果として、毎年幸いなことに複数の学卒者を採用してきた。

学生からは、「職員の笑顔が観られ雰囲気が良い。」とか、「利用者者とマンツーマンの支援体制でじっくり関わることができると。」といった感想が聞かれる。

そんな時には、えのき会が目指す一人ひとりの人生に寄り添い、地域の中であたりまえに暮らす中に利用者者が幸せを感じられる、同時にそうした支援をとおして職員も心豊かに成長できる、お互いの未来を創造していける法人の一員として共に歩んでいきたいと声をかけることが多くなりました。

えのき会は、障害のある子どもを抱えたお母さんが集まり、障害があっても尊い人生であってほしいと設立された法人である。その思いは、源流として継承されるべきであり、法人に関わる全ての人が理解し、従事すべきである。利用者を大切に支援することは結果として、周りの人々にも派生する。

私が今日まで歩いて来たなかで深く刻まれた実感でもある。後生に同様の悩みをもたなくても安心できる環境を創ると立ち上げられた創設者達の願いは、法人の理念となった。実践するなかで、法人の魅力を磨き、そのことに共感し、物語る人たちの輪を拡げたい。



### 京都鳥羽ライオンズクラブ様より

スヌーズレングッズを頂きました

京都鳥羽ライオンズクラブ様より、以前から欲しいと思っていました「スヌーズレングッズ」をご寄付して頂きました。

スヌーズレンは、70年代にオランダの知的障害のある人たちの施設で生まれ、発展し各地に広がっていきましました。光、音、におい、振動、温度、触覚の素材を組み合わせたリラクゼーションが、どんなに障害が重い人たちでも楽しめるという事で、今、多くの施設で取り入れられています。

寝る家でも、早速、頂いた光ファイバーにライトを点けると、利用者さんたちは、驚いたようすを見せながらも、目



式呈贈の目録

## ご寄付のお礼とご報告

2016年4月~2017年4月末

- 敬称略・順不同
- 勝見博光  
「ご無沙汰しております。ゆっくりお話ししたいです。」  
中野敏子  
「前向きに活動されて障害のある人を支えておられる皆様に感動を覚えます」  
原哲夫  
谷川政弘  
いつもご協力ありがとうございます。  
谷内文子  
「応援しています」のメッセージを添えて。いつもありがとうございます。  
猪鼻昌司  
えのき会にいつもご協力ありがとうございます。  
谷口登茂子  
お元氣ですか。  
山村幸子  
「有大大谷商事」  
いつも何かとご協力頂きありがとうございます。  
内藤善三  
長年のご支援に感謝です。  
法人の役員、顧問としてお世話になっております。  
儀員英雄  
早川京子  
西村清忠  
高橋陽子  
橋本加津代  
奥田希充子
- 中路慶子  
小仲幸子  
稲垣美代  
森田幸子  
土田恵理子  
伊東田利子  
「少額ですが、応援しています」のお言を頂きました。感謝しております。  
土田登美雄  
山本正治  
及川洋一  
長年にわたってのご支援、ありがとうございます。  
武蔵野真知  
「前号の橋本先生の記事は障害のある人だけでなく共通の問題ですね」と。いつもメッセージ頂き、私どもの励みになります。  
正木敦士  
「いつもニュースお送り頂きありがとうございます」のメッセージ。ご支援ありがとうございます。  
木田幸男  
清水孝男  
中島勉  
「少額ですがお送りします」のお言葉を。長年の「ご支援に感謝致します。」  
井上充子  
「大変ですが頑張つて下さいませ」のお言葉を添えて。感謝申し上げます。
- 山名靖英  
梅原久美子  
少しは、ゆっくりできますか。  
桑田明仁  
長きにわたってのご支援心より感謝しております。  
秋山泰人  
平井正一郎  
土田文子  
いつもお世話になります。  
草場周啓  
いつもご支援頂きありがとうございます。  
武部久美子  
山ノ下町内会  
北川良工務店  
建物のメンテナンスで、お世話になっております。  
おばちゃんの家  
若桐の会  
スタジオkimi  
皆様、毎年ありがとうございます。  
ご利用者のご家族から「ご支援を頂きました」
- 千秋儀男  
藤谷一夫  
大西雅也  
秋山眞一郎  
清水齋  
小中謙吾  
植田智恵  
西村昌樹  
平尾健治  
松岡峰子
- 津々木幸子  
松川剛士  
岡千栄子  
宮坂亜矢子  
安井愛咲  
飯田武志  
松田晶代  
三矢佑悟  
大西美智子  
西村善之助  
田村圭司  
宮下猛雄  
河本弘子  
竹本勝一  
渡辺登志子  
武内志真子  
樋口和子  
小山敏枝  
進藤育子  
武内志真子  
高橋隆行  
北野井暁
- 「何かのお役に立てれば」のお言葉と共に。感謝致します。  
古川末子  
玄関の募金箱  
京都鳥羽ライオンズクラブ  
淡路玉ねぎ・2箱  
給食に使わせて頂きました。ありがとうございます。  
利用される方のご家族に喜んで頂ける支援を提供していきたいと思っております。



計 3,296,346円

### 編集後記

上野千鶴子さんが『生き延びるための思想』の中で、「ケアとは非暴力を学ぶ実践である。これまで、どれほどの母が、妻が、嫁が、娘が、依存せずには生きていけない者の傍らで、そこから立ち去ることを選ばずにきたらどうか？」  
当り前に見えることが、実は奇跡だと気づかされる。それができるなら、非暴力の世界もまた可能だと希望を持つことができる。  
同じような生育過程を経ながら、なぜ一方は暴力を学び、他方(女性)は、非暴力を学ぶのだろうか？ケアとは非暴力を学ぶ実践であるという発見は、男たちにもケアへの参加を促すだろ

「障害のある子の介護を黙々と引き受けてきた母親たちにとって、こうして言語化され社会化されていくことが、エンパワメントとなっていくます。」  
戦争に繋がる法案が次々採決される中、もっと広く深く認識されてほしいと願います。  
(f)

発行人・関西障害者定期刊行物協会  
大阪市天王寺区真田山町2-2  
東興ビル4F

編集人：(福) えのき会 理事長 古川末子  
〒612-8002  
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8

1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価100円  
1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価100円





去る6月14日、改正社福法のもと新評議員による定時評議員会が開催され、平成28年度決算報告、役員選任等が承認されました。

この後で、平成29年度第1回理事会が開かれました。改正福社法に伴う理事長、監事等の新役員が選任されました。

制度改正に伴う新役員が決まりました

- 役員: 理事長 古川末子, 常務理事 村上高久, 理事 渡辺登志子(執行役員), 高橋陽子(執行役員), 西村清忠, 橋本加津代, 監事 磯貝英雄, 荻原卓司, 評議員 岸本栄嗣, 小林幸次郎, 小山敏枝, 下山ささ子, 清水千賀子, 田中聖, 山田章代



事業活動計算書

(自)平成28年 4月 1日 (至)平成29年 3月31日 (単位:千円)

Table with columns for勘定科目 and 当年度決算(A). Rows include Service activity increase/decrease, income, expenses, and net change.



貸借対照表

平成29年 3月31日現在 (単位:千円)

Balance Sheet table with columns for 資産の部 (Assets) and 負債の部 (Liabilities). Rows include current assets, fixed assets, and equity.

西宮市「青葉園」の清水明彦氏をお迎えして

去る6月4日(日)、西宮市社会福祉協議会常務理事清水明彦氏に、えのき会の職員研修会でご講演いただきました。

清水さんの講演を聴いて

今回の講演の率直な感想としては、「本当に情熱を感じた内容だったなあ」というものでした。

そのために、西宮では本人中心支援計画(京都市でいう個別支援計画)を作成し、一人一人を主人公としたそれぞれの物語を展開させておられます。

講演後、清水さんと直接お話しをさせていただく機会があり、感想と共に内なる疑問について伝えてみました。

「利用者さん本人を中心に」、その人の人生が豊かになるように、

と言いつつも自らも果敢として...という反省もありましたが、これまでは利用者さんと共に喜び、共に悩み、共に歩いていくことへのスタートラインに立っていません。

今回の講演で今後えのき会が目指していくモデルを見たように感じました。そして今、私は本当にスタートラインに立つことができたのかもしれない。

榎の家・平井 健二郎

先日は貴重なお話を有り難うございました。また、講演後のお酒の席でも楽しいお話を聴くことが出来、大変よい経験となりました。

生活介護、グループホームなど一見、利用者によさしい空間に見えても、世間や社会からの隔離の場となっているのではないかと、思うことがあります。

防犯カメラ設置について

昨年、神奈川県相模原市での事件後、厚生労働省より社会福祉施設等における入所者やご利用者の安全確保について注意喚起がありました。

この点、地域と一体となった開かれた社会福祉施設になること、防犯にかかると安全確保がなされた社会福祉施設との両立を図るためには、防犯設備の強化はもとより、日頃からご利用者が地域に出て活動し地域住民と顔の見える関係づくりをして、一人ひとりの存在を知ってもらうことが重要であると感じています。



事務局 西山竜